

program
曲目

- **ゲオルク・フィリップ・テレマン** Georg Philipp Telemann (1681-1767)
『忠実な音楽の師 Der getreue Musikmeister』より
2本のリコーダーと通奏低音のためのトリオンソナタ ハ長調

Introduzione C Dur

1. 序曲: グラヴゲーヴィグアーチス Grove - Vivace
2. アンダンテ Andante
3. コソナタ Corvino
4. タレーツァ Delia
5. テードー Duo

- **ジョン・ダワランド** John Dowland (1593-1626)
『歌曲集 第1巻・第2巻 The First and Second Booke of Songs or Ayres』より

1. 帰っておいで Come again
2. すてきな品物はいいが ご婦人ア Fine knacks for ladies
3. 僕は見た あの人が泣くの空 I saw my Lady weep
4. 今こそ僕は去らねばならぬ Now, I now, I needs must part

- **ミシェル・ブラヴェ** Michel Blavet (1700-1768)
『小品集 Recueil de Pieces』より

2本のフルートのための組曲 中短調 Suite en E

1. ブラヴェ氏のプレリュード Prélude de Blavet
2. 「カストールとポリュクス」からエアー Air dans Costor et Polux
3. 「ゾロアストル」からロンド風ガヴォット Gavotte en Rondeau dans Zoroastre
4. 小さなデュオ Petit Duo
5. 門番 La Touffere

- **ゲオルク・フィリップ・テレマン** Georg Philipp Telemann (1681-1767)
2本のリコーダーのためのソナタ ヘ長調

- 作者不詳 Anonymous / 白い花 Bianco Fiore

- **オットリーノ・レスピーギ** Ottorino Respighi (1879-1936)
『リュートのための古代舞曲とアリア Arie e danze del renaissance』より

1. イタリアーナ Italiana
2. 宮廷のアリア Aria di corte
3. シチリアーナ Siciliana

- **ゲオルク・フィリップ・テレマン** Georg Philipp Telemann (1681-1767)
『食卓の音楽 Tafelmusik 第2集』より

フルート、オーボエと通奏低音のためのトリオ 中短調 Trio en E

1. アフェットゥオーソ Affettuoso
2. アレグロ Allegro
3. ドルチェ Dolce
4. ヴィヴァーチス Vivace

～休憩～

アンリ・ルソー
と素朴派

Ensemble Montclair, Sapporo モンテクレール・アンサンブル札幌

1988年、バロックフルートの新林俊哉・伊藤都幸によって結成。翌年リコーダーの村富雅志を加え現在に至る。ルネサンス、バロックから古典派の室内楽を中心に演奏活動を行っている。今回は若手リコーダー奏者・網澤亮と、創設在位の気鋭のピアニスト・木下太陽がチェンバロで参加する。なおチェンバロの調律・調整は北海道の古楽演奏を支えてきた中西禮治が担当する。



新林俊哉(しんばやし としや) - バロックフルート、リコーダー

中学生の頃からリコーダーを始め、大学卒業後に横浜でバロックフルートを始める。バロックフルートを専攻し、中村忠尚氏に師事。リコーダーを前田泰氏に師事し、花岡和生氏のレッスンを受ける。「札幌リコーダー協会」「広重バロック研究会」会員。「モンテクレール・アンサンブル札幌」主宰。



村富雅志(むらくも まさし) - リコーダー

中学生の頃から古楽演奏に惹かれ、山内寛治(リコーダー)・千成千穂(ヴィオラ・ダ・ガンバ)・前原真子(チェンバロ)各氏のレッスンを受ける。大宮理(チェンバロ)・宮田とき子(ソプラノ)両氏の「The Early Music Consort」に参加。道内各地で演奏・録音のほか、多岐な演奏会をプロデュース。ヴィオラ・ダ・ガンバの宇田川真夫氏とはたびたび共演。1997年「創設音楽三昧」主宰。「札幌古楽の夏会奏」スタッフ。



網澤 亮(あみさわ みち) - リュート

6才よりギターを始め、古楽の音色に惹かれ、リュートを荒川幸一氏(中野真在位)に師事。現在ルネサンス・リュート、バロック・リュートの2台を弾きおける。「日本リュート協会」「リュート&ギターソサイエティ」唯一の北海道会員。



木下太陽(きのした たいよう) - チェンバロ

京都市立芸術大学・大学院卒業。これまでの地でリサイタルを開催するほか、札幌交響楽団、アンサンブル・シュッフなどのオーケストラと協演。伊藤や室内楽でも経験が高い。ピアノを中谷弘・宮澤裕行・神西敦子・阿原慎也の各氏に、チェンバロを菅原のゆり・菅原也の各氏に師事。北海道教育大学創設校非常勤講師。

・ 中西禮治 調律・調整

「素朴派」とは人間が持っている感性から自然に生まれる芸術である

アンリ・ルソーと素朴派

京都市立芸術大学蔵書

2001年
9月15(金)～10月21(土)

※本コンサートは「アンリ・ルソーと素朴派」展の関連事業として開催されるものです。

釧路市立美術館
Kushiro City Museum of Art

釧路市生涯学習センター3階

〒090-0036 釧路市常盤町4番25号
TEL:0154-41-8111 FAX:0154-41-8102



program notes
解説

テレマンはドイツのバロック音楽において最高の評価を受けていた作曲家で、普及活動・出版にも熱心でした。今日でいう音楽プロデューサーの元祖と言えましょう。さまざまな音楽を取り入れた作風は最先端の音楽として広く人気を集め、まだ少年だったモーツァルトにも強い影響を与えました。また彼は種々の楽器の奏法に通じており、特にリコーダーは少年時代から得意でした。2本のリコーダーのためのソナタ へ長調からは、演奏する楽しさが溢れ出てくるようです。

テレマンが最も得意としたジャンルがトリオソナタでした。トリオソナタは2つの旋律楽器と通奏低音（チェンバロと低音楽器の組み合わせが多い）との組み合わせで演奏され、起伏に富んだ表現が可能でした。『忠実な音楽の師』は1728年にテレマンが始めた世界最初の音楽定期刊行物で、「トリオソナタ へ長調」はその中で少しずつつけて発表されました。アマチュアの購買層も狙ったようで、各楽章に女性の名前を冠するなどフランス趣味の装いを凝らしてあります。『食卓の音楽』は第3集までであり、文字通り歓待の場の音楽として作曲されましたが、管弦楽組曲に始まり、協奏曲、トリオソナタ、クアルテットなどを経て管弦楽組曲で締めるという大規模な構成です。「トリオ ホ短調」は第2集に含まれ各声部の交歓が見事で、テレマンの本領が発揮された作品です。



テレマンはフランスの音楽家と交流があり、パリ訪問に際しては聴衆から熱狂的に迎えられました。テレマンと親交があったフランス出身の国際的フルート奏者がブラヴェです。ブラヴェは作曲の才にも恵まれ、フランスの伝統的な音楽にイタリア趣味を取り入れた作品を残しました。『小品集』は1744年から1751年にかけて編まれており、ブラヴェ自身の作品のほか、当時有名だった曲の編曲作品が含まれています。「組曲 ホ短調」にもラモー作曲のオペラ「カストールとポリュクス」「ノロアストル」の編曲が含まれていますが、気の利いた味付けはまさしくブラヴェ風です。

1970年ごろから、古い時代の音楽を当時の楽器（古楽器）で演奏する試みが盛んになりました。当初は学究くさくて稚拙な演奏だと酷評されましたが、多くの若い音楽家を惹きつけた結果、今日では演奏水準が飛躍的に向上しました。同じコンサートで古楽器と現代楽器を曲によって使い分ける演奏家も登場しており、ことさら「当時のスタイル」を強調することは今日むしろ不自然に感じられます。是非はともかく、日常のさまざまな場（持合室のBGMなど）に古い音楽は普及に浸透しています。先年来日した演奏家が「スーパーマーケットのトイレでバッハのソナタ！日本はなんという古楽王国なのだろう！」とあきれられるほどに。過剰な音響のなかに生活する現代の私たちは、その反動として虚飾のない「素朴な」音楽に惹かれるということでしょうか？



今からおよそ100年前にローマ音楽院作曲科教授となったレスピーギも同じことを考えたようです。ちょうどロマン派音楽の爛熟期、大音量と刺激的な音を求めてオーケストラの編成がどんどん膨らんでいた頃です。レスピーギは母国の貴重な遺産である古い音楽資料の研究に熱中し、古代の旋律や旋法を用いた簡潔な作品を書きました。リュート独奏用の写本から採譜され、管弦楽のために作編曲された「リュートのための古代舞曲とアリア」組曲は今日でも好んで演奏されます。

歴史に残る最大のリュート奏者・作曲家はジョン・ダウランドです。エリザベス1世の治世はイギリス文芸の黄金時代（シェイクスピアもこの時代です）と呼ばれますが、ダウランドは待遇に恵まれず大陸に渡って活躍の場を求めました。これはむしろダウランドの名声をヨーロッパ中に広めることになり、彼の「流れよ我が涙（涙のバヴァース）」は最初の世界的ヒットソングとなりました。ダウランドの音楽は各国の音楽スタイルを含んでいますが、首尾一貫しているのは当時の嗜好であった（たぶん彼自身の性格も）「メランコリー」に満ちた気分です。彼のリュート伴奏付き歌曲は、独唱とリュート、重唱とリュート、あるいは器楽演奏と、さまざまな形態で演奏できるように書かれています。

【原曲の歌詞大意】

帰っておいで／甘い愛が招くのに／美しいあなたは拒絶する／ふたたび僕と心を通い合わせ／見つめ、囁き、触れて、キスして、命果てるほどの喜びを

すてきな品物はいかが ご婦人がた／安く珍しい新品／お手ごろだけど、お金で動かせないものもある／美しい人にしか御覧に入れない美品のこと／たかが物売りの僕だけど、愛については別だ／売り物はがらくたでも、僕のまごころは本物の美品だ

僕は見た あの人が泣くのを／悲しみよ 誇れ／あの完璧な美しい瞳に宿ることを／あの人の顔は憂いに満ちている／だがその憂いこそが深く心を捉えるのだ／愛嬌のある陽気さよりもずっと

今こそ僕は去らねばならない／別れを嘆くことになろうとも／一度去った喜びは二度と戻らない／生きている限り僕は愛さなければならぬのに／絶望が僕を悲しく打ちのめす／あなたの冷たい心が送りこんだ絶望／もし別れが罪だというなら／罪作りなのはあの人だ

（村雲雅志）

